

— 目 次 —

■中小企業の現況と問題点……………8
 <新たな課題に向けて>
 ○<工業編>
 現況と問題点……………8
 中小工業近代化の動き……………9
 今後の課題……………10
 ○<商業編>
 現況……………11
 高速交通網の整備と商圏の変化……………12
 大型進出の影響……………12
 消費者志向の多様化……………12
 中小企業近代化の動き……………12
 今後の課題……………13
 ○<中小企業の近代化と県の対策>……………13
 中小企業構造改善の推進……………14
 中小企業の育成……………14
 中小企業金融の充実……………14
 中小企業の診断指導……………14
 中小企業の技術向上……………15
 労働需給対策と働く環境の改善……………15
 小規模企業対策の強化……………15
 私 の 提 言……………16

■過疎とコミュニティー 新しいふるさとづくり……………26
 変わりゆく過疎観……………26
 新しいふるさとづくりの気運と背景……………26
 現地に見るふるさとづくり……………27
 湯前町下村の場合……………27
 泉村の場合……………28
 長陽村下田の場合……………29
 村づくり実践者の声<草西信義・平山徳男>……………30
 過疎対策……………30
 本県の過疎対策……………31
 豊かな社会の建設について…<藤野隆一>……………32

■<この人と30分> 弁護士<高野弦雄>……………33
 ■熊本の経済…<長野敏一>……………36
 キャンペラの都市計画を見て熊本市を思う

■わが町・わが村 <牛深市>……………24
 ■グラビアページ
 ・<ふるさとの心>人吉城址……………3
 ・八代市本町アーケード……………17
 ・中小企業近代化への道……………18
 ・過疎地のコミュニティー……………22
 ・日立造船竣工なる……………37
 ・美しい熊本づくり……………38

随 想 欄……………6
 丸山定巳・松野博子・美村 幹

表紙は「おばけの金木」今から120年前の嘉永年間、人形師西陣屋彦七の創始によるもの、この玩具の好評のもとはその面相にあるようです。(熊本市)



▼人吉のシンボルである城址と球磨川



相良墓地



▲築城史上まれな武者返し

人吉城址

北は球磨川、西は胸川という自然の濠、東と西は、隣接した丘陵と切り離された急な断崖、自然を有効に取り入れた城、それが人吉城です。

鎌倉時代の正治元年正月、相良氏初代長頼が、城の修築をはじめたとき、城域の西南隅から三日月形の紋様の石を発掘、これにちなんで織月城の雅称を持っています。

人吉城は、鎌倉時代から明治の廃藩まで約七百年間、人吉・球磨の地を統治した相良氏の居城でした。現在、私たちが見る城の形に整ったのは、記録によると寛永十六年(今から三百年ほど前)です。城の建築物は、数度の火災と廃藩置県のとすすべてがとりこわされて見ることはできませんが、二つの川に沿った延長八百六十メートルの石垣をはじめ、城内の各所にある古びた石垣、中でも北海道函館の五稜郭と人吉城だけに見られる水の手門に面する通称武者返しなど、当時の威容を推しはかるに十分です。

球磨川に影を落す石垣、空に向かってまっすぐに立つ杉木立。人吉城址は、人吉・球磨の人達の憩の場であり、球磨川とともにこの地方のシンボルの存在なのです。

深い霧が、人吉の街をすっぽりとつつむ頃、霧にぬれた石垣は落着いた色を見せます。そして、城址が居住まいを正すのも霧の頃なのです。

(人吉市)